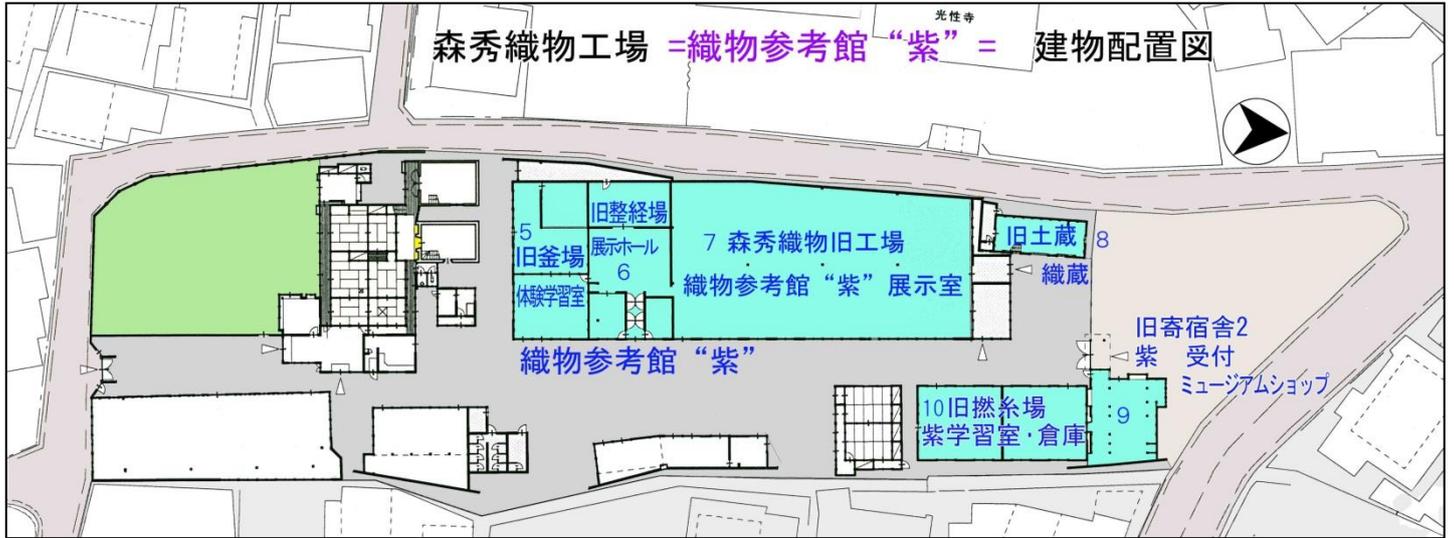


森秀織物工場【織物参考館“紫”】敷地内配置図

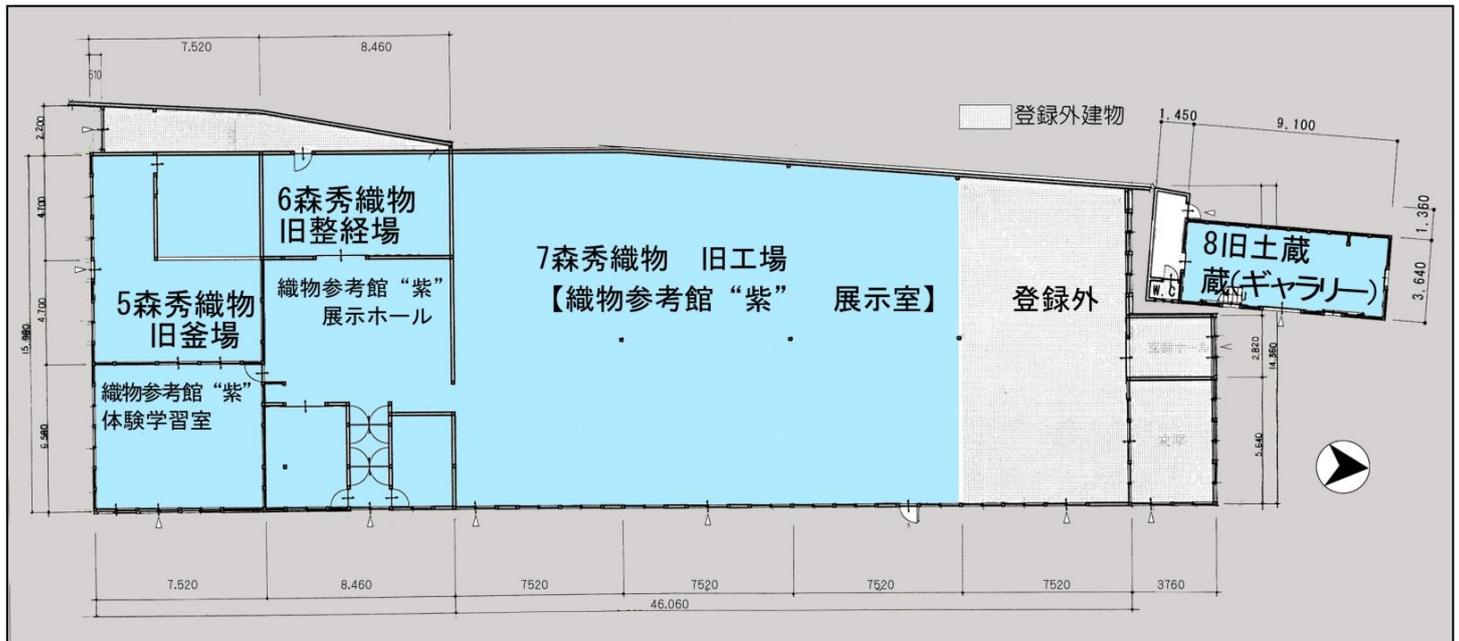
5 旧釜場 (体験学習室) 6 旧整経場 (展示ホール)

7 旧工場 (展示室) 8 旧土蔵 (織蔵) 9 旧寄宿舎2 (受付) 10 旧撚糸場 (学習室・倉庫)



森秀織物工場平面図

5 旧釜場、6 旧整経場、7 旧工場【織物参考館“紫” 体験学習室・展示ホール・展示室】



5 森秀織物旧釜場（もりひでおりものきゅうかまば）【織物参考館“紫”体験学習室】



かつては染色用の釜が設置されていたが、現在は東西を間仕切り、東側に藍染の甕を設置し、西側には手機（てばた）の織機が置かれ染織の体験学習室として使用されている。

名 称	構造形式・規模	建築年代等
旧釜場	木造平屋建、切妻造瓦葺。小屋組はキングポストの形式。桁行中央部に真束を挟むように2本の桁が通る。屋根の中央部に換気用の越屋根を設ける。内外壁とも板張。 東西(桁行)15.98m、南北(梁間)7.52m	大正13年

6 森秀織物旧整経場（もりひでおりものきゅうせいけいじょ）【織物参考館“紫”展示ホール】



旧釜場の北側に接する。小屋組はキングポストの形式となっている。東西両側の見える部分は切妻造の形をとるが、屋根全体は鋸屋根形である。外壁の状態や屋根瓦に共通部分が多く、旧釜場と同時期の一体の建物であったと考えられる。

名 称	構造形式・規模	建築年代等
旧整経場	木造平屋建、瓦葺鋸屋根(1連) 東西(桁行)15.98m、南北(梁間)8.45m	大正13年

7 森秀織物旧工場（もりひでおりものきゅうこうじょう） 【織物参考館“紫”展示室】



旧整経場の北側に連結する4連の鋸屋根工場。昭和20年代から30年代にかけて増築された。現在は織物参考館“紫”の展示場として、織機のほか織物に関する資料が公開・展示されている。

名称	構造形式・規模	建築年代等
旧工場全体	木造平屋建て鋼板葺。小屋組はキングポスト形式 北側に採光窓を持つ。西側壁面がコンクリート造。 各連の東西（桁行）中央部には独立柱が立ち各桁を支える。 中央の独立柱には南北にわたる梁材が架かり、それを中心 に両側にも同様の梁材が4本ずつ架かる。 西側の梁には織機の動力源であるプーリーが現存する。 南北46.60m、南面東西15.98m、北面東西14.36m	南から北へ増築
詳細（南1連）	東西（桁行） 15.98m、南北（梁間）7.52m	昭和21年8月登記
（中2連）	南面東西（桁行）15.98m、南北（梁間）7.52m	昭和27年頃増築
（北1連）	南面東西（桁行）15.98m 北面東西（桁行）14.36m、南北（梁間）7.52m	昭和30年代後半増築 登録外

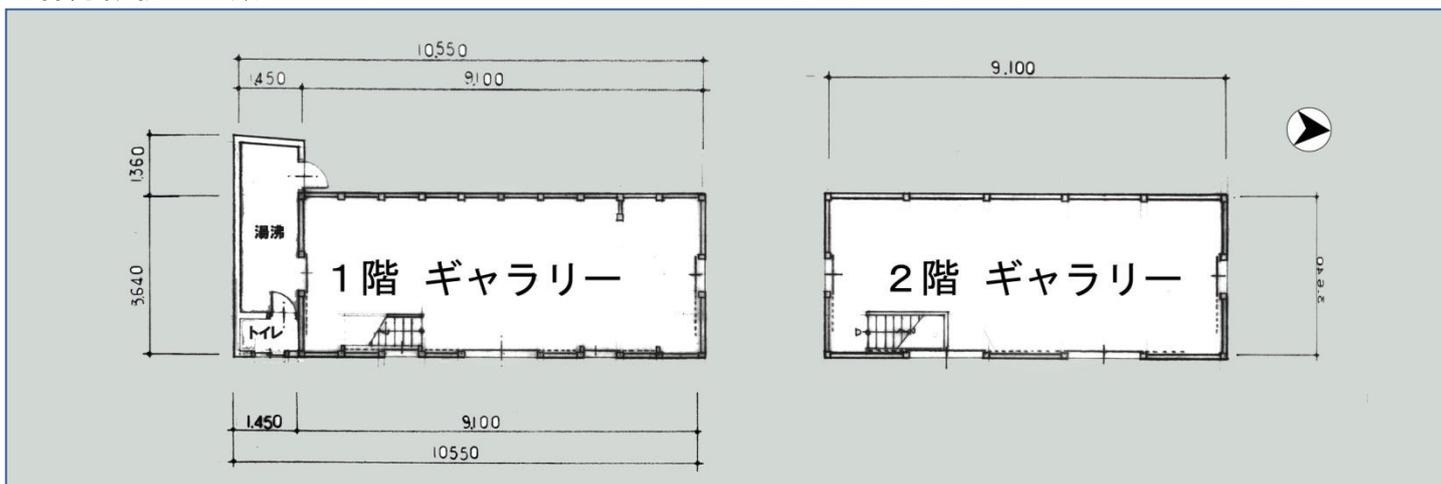


蔵・鋸屋根工場西面 鋸屋根工場西壁は塀を兼ねる。織物参考館“紫”展示室（旧工場）内部



織物参考館“紫”玄関ホールは、旧工場の北に下屋を張り出して設けられ、西側に旧土蔵が建つ。

8 森秀織物旧土蔵（もりひでおりのきゅうどぞう）【織物参考館“紫”織蔵ギャラリー】

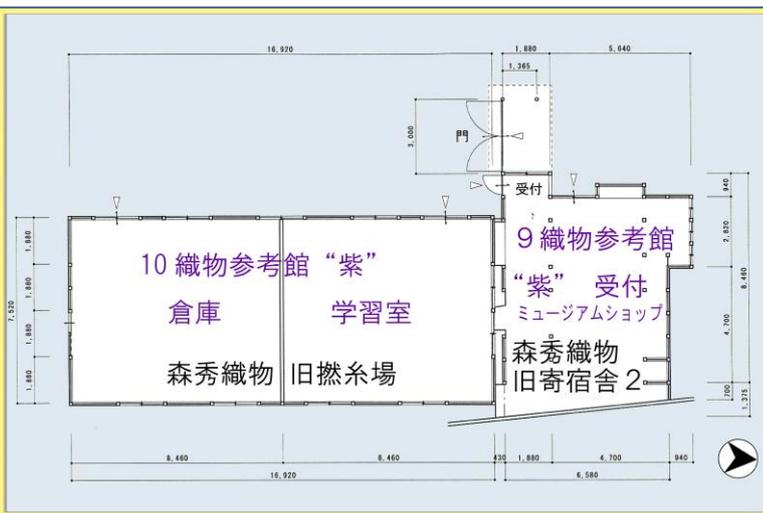


織物参考館“紫”玄関ホール西側に南北に長く建てられる。東側に出入口のほか窓を設け、南北の妻側にもほぼ中央に窓を設ける。外壁はモルタル塗、内壁は板張である。

森秀織物工場の生糸蔵として、主屋背後の西蔵の位置に建てられていたものを、昭和30年代後半に移築したと伝わる。現在は織物参考館“紫”の【織蔵ギャラリー】として利用される。

名称	構造形式・規模	建築年代等
旧土蔵	木造2階建、切妻造瓦葺 土蔵造り 南北(桁行)9.1m、東西(梁間)3.64m	大正13年

9 森秀織物旧寄宿舎 2、10 森秀織物旧現場事務所（経糸整経場）【織物参考館“紫”受付・学習室】



9 森秀織物旧寄宿舎 2（もりひでおりものきゅうきしゆくしゃ2）【織物参考館“紫”受付】



織物参考館“紫” 受付

内部（ミュージアムショップ）

かつて森秀織物は現在の駐車場に接する市道の北側まで敷地が広がり、社宅や寄宿舎が建ち並んでいた。現在も寄宿舎に使用されていた建物が現存し用途を変えて使用されている。

本建物は、織物参考館“紫”を開館するにあたり、市道の北側に存在していた寄宿舎の南側を切り離し現在地に引き移転し、正面を西に向け回転させている。建物の西面から北面の一部にかけて下屋を巡らせ、敷地に合わせ北辺 0.70m、南辺 1.37m の三角形の下屋を増築している。南西角には突出した受付と新たに織物参考館“紫”の門を取り付けた。内部は受付とミュージアムショップとするため、間仕切りを撤去し床をコンクリート叩きとした。平成 23 年北側に非常口を兼ねる出入り口を新設、西側に窓を設けている。南側に旧現場事務所が連なる。

名 称	規 模	建築年代等
旧寄宿舎 2	木造平屋建、入母屋造瓦葺 東西(桁行)6.58m、南北(梁間)7.52m	大正 13 年

10 森秀織物旧燃糸場（もりひでおりものきゅうねんしば）織物参考館“紫”【学習室・倉庫】



西面 中央に通路を挟み旧工場の東側に建つ



西面 南西

旧燃糸場は、受付の南側に位置し、東の塀沿いに西面して建つ。西側の南北双方に出入口を設け、窓には木製の格子がはめ込まれ、工場特有の雰囲気を感じられる。一部屋であったものを中央で仕切り、北半分を学習室、南半分を収蔵庫として利用している。他の工場建築と同じ時期で、大正13年の創建当初と考えられる。

名称	構造形式・規模	建築年代等
旧燃糸場	木造平屋建、切妻造瓦葺、小屋組はトラス形式。 南北(桁行)16.9m、東西(梁間)7.52m 内壁は漆喰塗、外壁は南京下見板張	大正13年



織物参考館”紫”門から南面を撮影
北側の入り口から南の森島織物工場へと繋がる通路。両側には工場施設が並んでいる